

2012  
**September 8-9**  
 Waseda, Tokyo



国際研究集会 **私はどのような  
 教育実践をめざすのか**  
 — 言語教育とアイデンティティ

International Research Symposium

2012年 **9**月 **8**日(土), **9**日(日)

早稲田大学 早稲田キャンパス 8号館

■基調講演:「私はどのような教育実践をめざすのか」から「私はどのような言語活動主体となりうるのか」へ / 細川 英雄 (早稲田大学)

■パネリスト: ピエール・マルチネス (パリ第8大学, 国立ソウル大学), 李 徳奉 (同徳女子大学), 森本 郁代 (関西学院大学), 司会: 鄭 京姫 (早稲田大学)

■7つの国と地域から 24 の発表と討論

個人は、さまざまな言語や文化を背負った行為者として、またその多様性や複雑性を深く考えられるアイデンティティをもったものとして捉えられる。こうした複言語・複文化主義の思想は、日本の言語教育に対してどのような力を持つことになるのか。アイデンティティに関することばの教育について抜本的な議論を行う2日間。主催: 早稲田大学日本語教育研究センター 言語文化教育研究会, 早稲田大学大学院日本語教育研究科細川英雄研究室

**What do I aim for  
 in my class?**  
**LANGUAGE EDUCATION  
 and IDENTITY**  
 in plurilingual & pluricultural environments

オンライン事前参加申込受付中

9月1日(土) いっぱいまでにオンライン登録の上、当日ご来場の方には、プロシーディングを半額の500円でお届けします。

詳しくは、<http://gbkk.jp.org/symp2012/>

【新刊】『研究活動デザイン — 出会いと対話は何を変えようか』細川英雄 (著) 東京図書  
 あなたがほんとうに探したい、研究テーマは何ですか。これまで『研究計画書デザイン』『論文作成デザイン』で研究デザインのあり方を提示してきた著者が、さまざまな出会いと対話を通じて、いかに自分自身のテーマを発見してきたかを語る。かけがえのない人生で「研究」という仕事を選んだ「あなた」への、連帯と励ましのメッセージ。



# 私はどのような教育実践をめざすのか 言語教育とアイデンティティ

2012年 9月 8日(土) 9日(日)  
早稲田大学・早稲田キャンパス 8号館  
<http://gbkk.jp.org/symp2012/>

「複：PLURI」という概念の下、個人はさまざまな言語や文化を背負った行為者として、そしてその多様性や複雑性を深く考えることができるアイデンティティをもった者として捉えられる。こうした複言語・複文化主義の思想は、日本の言語教育に対してどのような力を持つことになるのか。世界の言語教育の潮流と枠組みの中で、アイデンティティに関することばの教育実践のあり方について、抜本的な議論を行う2日間。

■主催：早稲田大学日本語教育研究センター言語文化教育研究会、早稲田大学大学院日本語教育研究科細川英雄研究室

■参加費：無料（プロシーディング代500円〔事前参加申込者〕／1,000円〔一般〕）※参加資格等はございません。

■お問い合わせ：[symp2012@gbkk.jp.org](mailto:symp2012@gbkk.jp.org)（研究会実行委員会事務局）

※本研究集会は、JSPS 科研費 22520540、早稲田大学日欧研究機構ヨーロッパ言語教育研究所、および笹川科学研究助成 24-812 の助成を受けて開催されます。

## 事前参加申込受付中

事前参加申込の上、当日来場いただいた方には、プロシーディングを500円でお届けします（一般：1,000円）。

事前参加申込は、オンライン登録のみで**2012年9月1日（土）** いっぱいまで。（当日直接の参加も可）

■事前参加申込：<http://gbkk.jp.org/symp2012/>

## 1日目：9月8日（土）

### ワークショップ [12:00 ～]

入門・基礎日本語教育における自己表現活動中心のアプローチ／西口光一（大阪大学）

### 基調講演 [14:00 ～]

「私はどのような教育実践をめざすのか」から「私はどのような言語活動主体となりうるのか」へ／細川英雄（早稲田大学）

### テーブル・ロンド、全体討論 [16:00 ～]

ピエール・マルチネス（フランス：パリ第8大学、韓国：国立ソウル大学）、李徳奉（韓国：同徳女子大学校）、森本郁代（関西学院大学）、細川英雄、司会：鄭京姫（早稲田大学）

## 2日目：9月9日（日）

### 口頭発表 A [9:00 ～]

●書き手の顔を共に思い描いていく教育実践をめざして—日本語学習者の推敲過程から／張珍華（早稲田大学）●「日本語世代」のアイデンティティに関する一考察—台北市のデイケアセンター「玉蘭荘」に集う人々の語りから／佐藤貴仁（早稲田大学）●「わからなさ」と向き合う—言語教育における翻訳／小笠原はるの（札幌大学）

### ポスター発表 [11:00 ～]

●自分を他者に伝え、自分の人格、価値観、考え方に気づく言語活動—私はどのような教育実践をめざすのか／赤石恵理子（早稲田大学オンデマンド公開講座）●対話を行い、書き、考えることで見えてきたこと—「日本語教師のための国際ネット対話プロジェクト実践」に参加して／鶴田靖行（早稲田大学オンデマンド公開講座）●言葉は繋ぐ／言葉は断ち切る—他者非難・否定のコメントにおける〇〇国人アイデンティティ表出と使用言語／山本冴里（山口大学）●自律し内省できる教師を育成するために—多言語国家マレーシアにおける日本語教師養成コースでの実践を通して／Ang Chooi Kean（Institute of Teacher Education Malaysia）佐々木摩美（大原キャリアビジネス専門学校）●複言語サポーターの「支援についての語り」にみるアイデンティティーポジショニング理論から／徳井厚子（信州大学）●日本語教育にとって「本当は何か重要か」／星亨（石川県国際交流協会）●学習者自らが実践活動と自らの人生を結ぶために／高橋聡（早稲田大学）張珍華（早稲田大学）●〈思い〉を言語化する営み—書く行為に関する一考察／武藤理恵（早稲田大学）●他地域から移り住んだ教師の孤立感—自分らしい居場所を求めて／瀬尾匡輝（香港理工大学）青山玲二郎（香港城市大学専上学院）米本和弘（マギル大学）山口悠希子（香港大学專業進修学院）●教師の教育ビリーフと教育実践—ナラティブ・アプローチに基づく事例研究／牛窪隆太（早稲田大学）●アイデンティティ生成の場としての日本語の教室—学習者が「自分だけ」のテーマを構成するプロセスからの考察／古屋憲章、山内薫（以上、早稲田大学）●「生きるとは何か」をテーマとした教育実践と学習者のアイデンティティー—大学で日本語を学ぶ複数言語話者の場合／森口祐子（早稲田大学、上智大学）●自律的な学習者の育成をめざしメタ認知指導に焦点化した協働学習を取り入れた英語授業／津田ひろみ（明治大学）

### 口頭発表 B, C [13:40 ～]

●「日本語話者」というアイデンティティー—「にほんで わせだの森」が目指す「つながりをつくる」ことの意味／マルケス・ペドロ、角浜ひとみ、松本裕典、高須こずえ、田中奈緒（以上、早稲田大学）●「よい予感がする」表現教育—二日間のクラスが残したもの／牲川波都季（秋田大学）●就労時における日本語の問題の一般化と実践への応用に対する考察—元学生へのインタビュー調査から／松井孝浩（国際交流基金）●学習者それぞれのことばと生の交点としての日本語教室—他者と意味世界を協働構築することばの獲得をめざして／真丸真澄（早稲田大学）●「目指すもの」の確認／接近としての実践と対話—スラバヤでの実践とオンラインでの対話から／松本剛次（スラバヤ国立大学、早稲田大学オンデマンド公開講座）●「私」という日本語教師の変貌を意識化する—自分誌による教育実践の編み直し／佐藤正則（早稲田大学）